

# 特集 ひょうごの酒米「山田錦」生誕70周年を記念して

## 1 本県の酒米生産の現状と今後の展望

はじめに

兵庫県は、古くから各地で酒米が生産され、酒米の出荷量は全国の約3割のシェアを占めており、日本一の酒米産地となっている。

なかでも、「山田錦」は、1936年2月27日に本県の奨励品種に採用され、以来全国的に高い評価を維持し続けている驚くべき長命の品種である。本年、70周年を迎えた。酒の消費が減少しつつはあるものの、日本の国酒として日本文化を支え、愛飲家を楽しませ、本県の農業、酒造産業を支えてきた偉大な品種に感謝の意を表したい。さらに今後も「山田錦」を中心に、70年の伝統を活かして、生産農家、普及センター、酒造メーカー、関係者連携のもと、兵庫県の酒米生産を発展させることが重要と考えられる。

酒米生産の現状

2005年の本県の酒米の生産面積は4,600haで、最も多く栽培されていた1960年代の半分以下になってしまった。近年、酒の消費は低迷を続け、大きな需要の回復は望めないが、コミュニケーションの新しい形や生活のゆとりを楽しむライフスタイルを提唱したり、ストレスの解消や美白効果等の清酒の効用をPRし、消費拡大に関係者は努力している。吉川町にある「山田錦の館」は、いろいろなお酒を揃え、酒米に関する情報発信基地として、多くの人々に見て頂きたいスポットである。

現在、本県の特定奨励品種に指定されている酒米は山田錦・兵庫夢錦・五百万石・兵庫北錦の4品種で、それぞれ、阪神北部・北播磨地域で3,773ha、西播磨地域で390ha、但馬・丹波地域で179ha、同じく但馬・丹波地域で62ha栽培されている。基本的に従来からすべて契約栽培であり、近年飯用米で提唱

されている「売れる米づくり」をすでに実践している。このほかにも醸造用玄米の産地品種銘柄には、12品種が指定されており、他府県に比べて、品種の品揃えも豊富である。これらはすべて特定の酒造メーカーとの結びつきで生産されている。栽培地と作付け面積は次のとおりである。

フクノハナ（豊岡市出石町：91ha） 愛山（社町：39ha） 兵系酒18号（三木市吉川町：19ha） 但馬強力（丹波市市島町：5.1ha） 山田穂（多可町中区：4.5ha） 新山田穂1号（三木市吉川町：3.4ha） 杜氏の夢（丹波市市島町、加西市：0.7ha） たかね錦（香美町：0.4ha） 神力（たつの市御津町：0.4ha）  
新規：いにしへの舞、白鶴錦、野条穂

近年、地球温暖化の影響等で、これら酒米も品質の低下等が危惧されている。当面の対策として、気象データを解析して品質阻害要因の究明を急ぐとともに、栽培技術での対応を検討しているところである。長期的には、分けつしにくい短稈の新「山田錦」育成を視野に入れて、DNAマーカーの利用技術を検討している。また、東条町では、品質向上のための恒常的な土づくりの取り組みを行っている。これらを今回紹介する。

今後の展望

18年度から気象災害にも強いDNAマーカーを利用した新「山田錦」育成にも取り組む。今後、良質な酒米を安定供給できるよう技術、普及、流通関係者が一体となって、兵庫の酒米を盛り上げ、おいしい酒を消費者に届け続けることが大切である。

世古晴美（農業技セ・作物・経営機械部）  
（問い合わせ先 電話：0790-47-2411）